

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年7月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数)
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890101102
事業所名	グループホームあわい
(ユニット名)	かなでユニット
記入者(管理者)	
氏名	横山啓介
自己評価作成日	29年 7月 7日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 ・お年寄りに対する尊敬の気持ち ・やりがいのある職場づくり ・地域社会への貢献</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 家族との信頼関係向上に向けての取り組みの一つとして、家族会の内容充実と開催回数を増やす。としていたが回数は前年と同じく2回となった。内容は外部評価の報告であったり活動の報告であったり、普段聞けない内容を家族へ伝えることができたがまだまだ充実とは言えない。玄関ホールへファイルをおいて家族が外部評価結果を閲覧できるようにした。面会時見て頂いている。長年にわたり地域医療・福祉に尽力してきた法人であり、地域からの信頼や安心を得ている。介護予防に力をいれ、介護教室や喜んでもらえる行事を企画実施していく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 複合施設1階にあり、開設4年目を迎えた。長年の地域医療や福祉に貢献してきた法人力を基盤としている。施設内を開放し、地域住民に向けた介護教室等の勉強会を開催している。職員の一人ひとりの介護への意欲が高く、向上心溢れる姿勢には魅力を感じる。利用者のこだわりや大切にしたいことを実現できる事業所である。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者さんの希望や思いを大切に、ケアプランに取り入れるようにしている。	○	/	◎	センター方式「私の気持ちシート」などを活用し、利用者の思いを大切に記録をしている。利用者の情報は定期的に更新することで、その時の課題に焦点をあてることができている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の意見が確認出来ない時は、ご家族さんからの意見を参考にしたり、職員が集まり話し合うことで「本人が望まれていること」を考える。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族、親せきの他に、面会に来られた知人や友人と共に、本人の思いを話し合うことがある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプラン作成時に、本人及び家族の生活に対する意向を記入した「居宅サービス計画書(1)」を記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思いを見落とさないよう、普段の生活の様子からも変化、要望がある時はその都度聞き入れられるよう気をつけている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に、センター方式を用いた用紙へ記入していき、付け足しをしながら、これまでの暮らし方やこだわりを理解していけるようにしている。	/	/	◎	入居時に利用者や利用してきたサービス事業者から聞き取り、生活の中で新たに入手した情報を追加更新させながらセンター方式でまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	できること・できないことを見極め、その時の状況に応じた関わり方でケアに当たっている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人が不安になる場面があれば、それを把握しておき、なるべくそのような場面を作らないように、そのような場所に行かれないように気をつけている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人にとって不安、ストレスとなっているものを職員個々が考え、話し合いながらその状況が改善できるように努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者一人ひとりで生活リズムや日々の変化があり、それぞれに違うので、それらを理解した上で、関わるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人とご家族の他、友人や知人の意見や要望も取り入れながら、職員含め担当者会議として話し合いを行っている。	/	/	◎	ユニット会議で担当職員が中心となって話し合い、利用者が必要としていることを本人の視点で検討し、内容を議事録に記録している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人がより良く暮らすための支援を行えるようチームで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	担当者会議を行い、検討した後も、残された課題として今後、取り組むべき課題を明らかにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思い、意向など希望が取り入れられ、考えられている。	/	/	/	ユニット会で話し合った内容や、利用者や家族の希望を反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	計画作成時には、本人と家族等を含め、その他の関係者が意見やアイデアを出し合い、反映させている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方が慣れ親しんだ暮らし方や、日々の過ごし方を尊重しながら、現在の状態に応じて無理のない安楽な生活が送れるように配慮している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族、地域の人たちの協力を得て、成り立つ介護計画となっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者一人ひとりの介護計画は、ユニット会にて職員間に把握され、共有できるようにしている。	/	/	○	ユニット会で介護計画を共有し、実施内容をチェック表で日々確認することで、根拠あるモニタリングへとつなげている。経過記録には、利用者の様子が手に取るように具体的に記録され、かつ職員のアイデアを豊富に記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランの内容で、日々ケアが実施出来たかを確認するチェック表があり、○×によって毎日評価し、確実に支援が実施できるようにしている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人ひとりについて、カルテの経過記録に、具体的な日々の暮らしの様子を、言葉や表情等交えながら具体的に記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	一人ひとりの記録には、職員の気づきや工夫したことも記入している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。	○	入所後1ヶ月、その後は3ヶ月、6ヶ月と定期的にケアプランの見直しを行っている。	/	/	○	入居後1か月、3か月、6か月と定期的に見直しを実施し、ユニット会で毎月現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月月末には、担当者がケアプランの実施状況を確認し、評価を行い、カルテに記録することとなっている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の心身状態、暮らしの状態に変化が生じた場合には、その都度、関係者を交えてケアプラン見直しを行い、状態に応じて新たなプランを作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会では定期的な見直しの時期に、ケアプランの見直し、職員間で意見を求め合い、参考にしている。緊急、必要時は会議を開き、話し合いの場を作っている。	/	/	○	ケアを行う上での課題は、毎月のユニット会を活用し、職員間で話し合いを行っている。緊急案件など、状況に応じて会議を開催している。参加できなかった職員は、会議録や伝達ノートを確認することで正確に内容を伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では、職員がお互いに意見を出しやすい雰囲気を作り、相手の情報や考えをよく聴き、自分の意見も伝えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限り多くの職員が参加できるように、開催日時は日中(第4木曜日 14:30~)に決め、ユニットのスタッフルームにて実施している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議で話し合われた内容は、「会議録」として記録し、全職員に確認してもらうようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	職員間での情報伝達は、口頭で伝える以外に、伝達ノートを作り、伝達事項の記入と、確認後のサイン記入を行い、情報共有を行っている。	/	/	◎	伝達ノートや会議録を活用し、確実に申し送る仕組みが機能し、情報共有ができています。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	夜勤明けの職員から早出勤員へ、早出勤員から遅出勤員へ、遅出勤員から夜勤者へと申し送り、情報伝達を行い、重要な事項が必ず全ての職員に伝えられるようにしている。	○	/	/	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話の中から今なにをしたい、何か気になることを察し出来る事、提供出来る事は実現する。	/	/	/	洗濯たたみや台拭き、草引きや掃除など、利用者がこれまでの生活の中でご当たり前に行ってきたことで出番を設けて選択してもらい、達成感が得られるよう配慮している。「やってくれて嬉しい」と伝えることで、利用者との関係性を深めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	買い物等の選ぶ楽しみ、お手伝いでのそれぞれ好みの役割等、意思を尊重している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現できるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	利用者が思いや希望を表現するような工夫や働きかけが足りない。自分で決めたり、納得のいくような対応は心掛け実行している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	限られた時間内ではあるが、満足いくようなペースで行っている。起床や食事無理強いない。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	ジョーダンも織り交ぜ笑顔を引き出せるように努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	経験豊富な職員であり、日頃からよく観察している。家族やセンター方式等より情報を集め様々な角度から意見をだしあう。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部勉強会にて、認知症の理解・プライバシー保護・職業倫理とうにより教育を行っている。	○	◎	○	言葉かけの面で口調等などに配慮が欠けていると感じれば、その都度諦めずに管理者が声かけをし、職員に気付きを持ってもらえるよう指導している。勉強会で職員は共通意識を高めている。居室への入退室について、利用者占有の場所であることを理解し、ノックや挨拶を行っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	なれ合いが出てしまい配慮に欠ける場面がある。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	声掛けの大切さ、本人に合わせたペースをよく理解している。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	明らかに居室不在と分かっても必ずノックは行う。ほとんどの職員が声掛け入り入室している。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護・個人情報の保護の勉強会を行っている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	理念にもある、「人生の大先輩」を一人一人が念頭に置いている。入居者の自信につながるよう「助かります」「ありがとうございます」は欠かさない。				利用者同士の関係性を職員は理解している。ダイニングテーブルのレイアウトはいつでも変更可能で、状況に応じて配席を検討したり、さりげない介入ができています。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	業務を通じて職員一人一人が感じている、お互いさま・お蔭さま、助け合う大切さを分かっている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	日頃のケアを通し、利用者の性格、行動を十分把握し、トラブルにならないよう配慮している。必ず間に入り良い関係作りに努めている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必ず素早く間にはいるように心掛け実行している。必要であると判断すれば家族の協力もお願いし話を聞いて頂く。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	センター方式により生活歴等の情報収集しているが、家族によつたら情報不足があったり職員の認識不足もある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	センター方式により生活歴等の情報収集しているが、家族によつたら情報不足があったり職員の認識不足もある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	こちらから会いに行くことがほとんどない。お墓参りや法事や自宅への一時外出はある。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	接遇には力を入れており、気持ちの良い挨拶、お話し、おもてなし(お飲み物・椅子等)を素早く行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	屋内中心であり、洗濯物干しや天気の良い日の屋上での日光浴、お散歩くらいである。	○	○	○	日常的には施設建物屋上や周辺地域の散歩が中心になっているが、おやつを外で食べて気分を変えるなど工夫がある。季節行事の花見や家族の協力を得ての帰省、ドライブがてら買い物へと希望に沿った外出支援ができています。重度の利用者も戸外の風に当たり、気分転換ができるように努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	車椅子にて花見観賞や日光浴を行っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	野球観戦や演劇を見に行く計画を立てている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症や行動心理状況についての勉強はし理解はしている。要因を紐解き様々な案は出している。				毎日の生活の中で、利用者が「やってみたい」「できそう」と感じられる場面を見つけては、一緒に行えるよう声をかけ、無理強いすることなく支援することができている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	理解できている職員はいるが、効果的な取り組みとはいい難い。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人にやる気が湧くような声掛けや励ましを行い、出来る事を見極めながら一緒に頑張るように援助している。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居前のp情報収集や入居後のセンター方式での分析を行っている。				事業所だけでなく家族の協力を得ながら支援している。利用者の楽しみや役割を分析し、暮らしの中で楽しみが継続できるよう検討し、趣味の盆栽を管理する利用者の居室は圧巻であった。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	工夫が足りない。バリエーションがなく、もった脳が活性化するような内容だったり、自然とやる気が湧くような体操があればと思う。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	あわい地区の公民館祭りへ製作品を出展した。				
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	それぞれの好みは必ず取り入れる。このスタイリングでいいか本人の感想も聞くようにしている。				整容ケアについて、法人全体での取組みを実施している。利用者の希望を聞きながら、重度な状態であっても健康管理に配慮しながら、季節に応じた身だしなみを整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	それぞれの好みは必ず取り入れる。本人の感想も聞くようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	馴染みの服や家族へ聞き取り情報収集している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の時は家族さんへも相談しながら選んでいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	口にはださない、整容ケアには十分配慮している。5Sの取り組み(きれいなお年寄り)	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	可能な限り希望を聞き、馴染みの美容院が外にある方は家族と外出もされる。カラーやパーマ				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	着るものの調節には注意している。循環の悪い方には保温に気をつけ、四肢や顔色の状態は気をつけている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食の大切さ楽しみは皆が理解している。	/	/	/	法人内で統一したメニューであり、食材は一括して準備されているが、持ち回りで献立を立案したり、各ユニットで調理する際に自由にアレンジすることができ、下ごしらえやおやつづくりなどを利用者とともにやっている。利用者の好みやアレルギーの有無を把握し、色合いや旬の食材を取り入れている。食器は使いやすいものや使い慣れたものを用い、職員は利用者の様子を確認しながら同じ食卓を囲んでいる。重度な状態にあっても、同じ食卓で他利用者とともに香りや雰囲気を楽しむことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の下処理を一緒におこなっている。食べたい物を聞き注文に加えている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	得意な方にはお好み焼きやホットケーキを御願ひしたり、自信へつながらるように感謝の言葉も必ず添える。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	センター方式、日々のコミュニケーションの中から情報を得、申し送りにて共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	法人統一メニューであり、グループホームあわいが献立を立てるのは6月、7月分である。サイドメニューをなにかつけたり、味付けを少し変えたり個々のニーズにこたえている。行事等では献立も変更する。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろいろや器の工夫等)	○	誤嚥と一人一人の食事形態にはきをつけ、利用者が美味しいと感じるようにみじん切りにしたり、とろみを加減したり、している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのものを用意していただいている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事している。サポートも素早く行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	匂いや音、話を通して楽しみにまっていただけしている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	カロリー計算までは行っていないが状態観察、水分量のチェック。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	脱水の危険は理解しており、水分チェックもしている	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	調理の得意、不得意が職員間でありアイデアも声掛け合いながら協力して作っている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	係を決め、冷蔵庫や食材の在庫の確認を頻回にしている。生ものは使い捨てのまな板や、消毒の徹底により防止する。	/	/	/	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの外部勉強会へ行き、自施設にて振り返りの伝達講義をおこなっている。	/	/	/	口腔ケアが苦手な利用者にも自尊心に十分配慮した介助方法を検討し、歯科往診で専門的なアドバイスを得ながら支援することができている。自身で口腔ケアができる利用者の管理が不十分であると感じており、今後は全利用者の口腔内の健康管理に取り組めることに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分でされる方への口腔内の状態確認が不十分である。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修等あれば参加している。往診の先生に助言やアドバイスをいただく。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来るところはして頂き、仕上げは行い、消毒も欠かさない。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	自分でされる方への状態確認(清潔確認)が不十分である。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	迅速に対応している。協力歯科(光洋台DC)より往診あり。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能が高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	可能な限り自然な形での排泄に努めている。安易に紙パンツ使用しない、オムツの使用も身体状態を家族を含めて慎重に検討している。	/	/	/	退院後等の大きな変化がある際にはアセスメントを行い、オムツから紙パンツへの軽減につながる利用者もいる。トイレでの自然排泄を基本に、本人の能力を活用した支援を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	グループホームでの勉強会をおこなっている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄状況チェック表にて把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	必要性についても見直ししたり、状態に応じてオムツはずしへの意識はもっている。	○	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	看護師にアドバイスをもらいながらではあるが、慢性的な便秘の方への介助者として有効な手段に困ることがある。頻尿に対しては様々な工夫がみられる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	パターンを把握しおこなっている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	利用者の意見を反映して選ぶケースがあまりない。決まった商品からサイズ等こちらで選ぶことが多いが、家族負担は大きくならないように注意している。初めての方は本人にお伺いをたてて購入している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	体型や排泄量に応じて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	運動を行ったり、マッサージをしたり、腹部を温めたり、水分や乳製品を多めにいく等の対応ではあるが、おこなっている。効果を得られない方もいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	夕食後夜間に入浴される方へは時間をずらして入浴介助をおこなっている。長さや温度等も配慮している。	◎	/	○	週2回入浴を基本とし、希望や習慣に応じてゆっくりとした入浴時間を確保している。法人内の機械浴を利用することもでき、状態や希望に応じて対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	焦らすことはせず、ゆっくり入浴していただいている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は本人にお願いし、本人のペースで動いてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、拒否の背景をスタッフ全員で考え、気分が乗るように対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前の健康チェック必ず行う。血圧、検温、様子観察。入浴後状態変化にも注意し、水分補給も行う。	/	/	/	
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の観察を1時間ごとに行い、睡眠状態をカルテに記入している。	/	/	/	服薬処方の利用者もいるが、概ね安眠傾向にある。利用者個々の一日のリズムを把握し、正しい生活リズムへつなげるよう配慮している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中の過ごし方の工夫や夜間の不安を取り除く声掛けが行える職員もいるが、改善せず対応に困っている職員もいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	生活リズムや睡眠パターンを分析することもある、毎回ではなくカルテの経過記録や情報収集等を検討材料にしている。医師とも相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	車椅子の方や自分で居室に戻れない方へは、午前午後自室で休息する時間をとっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば家族へ電話し、安心して頂いている。暑中見舞いや年賀状の作成も行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	そのような場面があればおこなっている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	公衆電話は無く施設の固定電話なので、使うのに少し遠慮が出てしまうかもしれない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人か家族に報告しお渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	心配を抱えている方は家族へお話し協力頂くようにしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	敷地内の売店等買い物に行っている。2か月に1回中山物産展開催に参加している	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	外部への買い物が可能な方は限られてしまっており、馴染みの関係のお店がある状態でもない。移動販売には協力いただいている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	利用者の家族へお金は預らせて頂くようにおねがいはしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	出納簿をつけ、金庫に施錠し保管管理している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納簿をつけ、金庫に施錠し保管管理している。規程と同意書あり。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	柔軟に対応出来るように取り組んでいる。可能な限り家族・利用者のニーズを尊重し応えている。	◎	/	◎	基本的に送迎サービスは実施していないが、家族の集うお正月に帰省したいという利用者のニーズに応えるなど、その都度柔軟な姿勢で対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	植栽をもう少し季節に合った可憐にできればと思う。鉄筋コンクリート造の為に少し堅苦しい雰囲気があるかもしれない。	◎	◎	○	複合施設内にあってもグループホーム独自の玄関を設け、季節感や温かさを感じる飾り付けで立ち寄りやすい雰囲気が演出できている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	内容の通りほぼできていると思います。	○	◎	○	明るい色調の内装で、広々とした開放的な共用空間は、季節感を取り入れた温かみある装飾で心地良さを感ずることができる。清潔であることにごだわりを持ち、空調管理や清掃、臭気への配慮が行き届いた快適な空間を保っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清掃、換気、消臭、気をつけて行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられる壁面飾りを意識している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでの座席配置も工夫し、憩いの場ではストレスをためない、安心して過ごせる配慮はしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	脱衣場にのれんがあり、トイレにカーテンがあるが十分ではなく廊下から見える恐れはある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居の際に家族へ馴染みの道具や、可能な限り居心地の良い居室の雰囲気作りをお願いしている。	○	/	○	利用者の馴染みの家具や趣味の道具を持ち込んで、それぞれに趣きある空間となっている。また、全室清掃が行き届いている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	動線や安全に配慮し妨げにならないように工夫している。	/	/	○	建物内部は共用空間と各居室がわかりやすく配置となっており、現在混乱する利用者はいない。動線上の安全に配慮した生活環境を整えている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険や混乱を招く可能性があるものについては、家族や利用者、職員で検討し対応を考えている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手にとれるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	出来る方にはそのようにできているが、(ほうきや家事道具)車椅子の方や身体機能が不自由な方への工夫が足りない。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	夜間以外の施錠はしていない。	◎	◎	◎	法人全体の取組みとして、鍵をかけないケアを徹底し、自由な暮らしについて理解している。外出したい利用者には、見守りに対応することができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	大半の家族に安心していただいている。またはご理解いただいている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	他部署との連携、入り口に鈴を付けている。運営推進会議で近隣住民へ説明、見守りの眼をお願いしている。	/	/	/	
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴や服薬内容等、入居時に洗い出し周知している。定期診察にての診察内容や内服薬変更等も申し送っている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	早め早めの異常を察知し、連絡、相談がスピーディーにおこなえている。往診や外来にて検査行い、協力病院との連携も密である。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	できている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	昔馴染みのかかりつけ医を希望される方は引き続き診察が受けられるように協力している。病状に合わせた病院を家族へ案内し家族・利用者と共に方向性を決めてい	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	要所所では往診時に家族を交え主治医との話し合いを行い、意向を確認しその後の治療方針へ反映している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	可能な限り迅速に電話連絡をし、状況や結果報告している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	本人の生活リズムや習慣は必ず伝えるようにしている。情報は細かく伝えている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	退院ごのフォローがスムーズに行くよう、連絡は密にとっている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	常勤の看護師や同建物内の看護師に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	常勤看護師が24時間連絡できる体制にある。主治医との連絡も可能である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	週に2回は協力病院のドクターが事業所にきており、変わった様子が見られればすぐ受診できる体制がある。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤の内容はカルテにファイリングしており、変更や追加があれば薬の内容や状態について細かく申し送っている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	細心の注意を払い、投薬をおこなっている。誤薬もほとんどない。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しい薬や、睡眠薬や向精神薬とう内服時は考えられる副作用について注意するようつたえている。カルテに記入して様子観察を行っている。異常があれば速やかに管理者へ報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	看護師を中心にし状態の変化を細かく主治医に報告することで、不要な薬の中止等へもつながる。様子はカルテに記録して家族へも連絡している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、状態変化時、その都度確認している。				看取り介護の経験があり。状態に応じて意向を確認しながら方針を共有し、できること、できないことを明確にしている。終末期を迎える利用者や家族を支えるためには、職員の不安軽減が不可欠と考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医とは密に情報共有しており、職員を含め状況、方針も共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	△	グループホームあわいで看取りが過去に1件といざという時の不安はあるが、力量への不安はない。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療行為のみならず、できないことはお伝えしている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関と密に連携をとりながら、変化に迅速に対応出来るようにしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の不安、特別な事情等、素直な声が聴けるような雰囲気づくりを考えながら、安心して頂けるような声掛け、誠実な説明を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	グループホーム内で毎年勉強会をしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアル整備しており、それを基に勉強会もおこなっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	注意喚起記事や注意報が発令されれば通達速報行い、施設内に注意書き掲示する。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	法人内で情報共有している。パソコン内にて通達確認。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いうがい励行できている。玄関ホールにある手洗い場に消毒、マスク、うがい用のコップ常設している。	/	/	/	
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族が来られた時には、一緒に話をしながらご本人を中心にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。	/	/	/	季節行事や法人全体での夏祭り、家族会等、家族が足を運びたいくなる参加型行事を工夫して開催している。定期的なお便りや、写真の送付で、来訪する機会が少ない家族にも利用者の暮らしぶりを具体的に伝えている。運営に理解や協力が得られるよう、その都度報告し説明している。些細な話でも気軽に口にするよう、面会や連絡時の関係づくりを大切にしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族が心地よく過ごせるように、挨拶、声掛けを行い、居室やリビングで寛いで頂けるように、イスや飲み物を用意している。宿泊されることはないが、朝や夜でも時間を気にせず面会に来ていただいている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	グループホームでの季節行事や、施設全体での行事をご案内し、一緒に参加して頂けるような機会を作っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	年4回の「あわい便り」をご家族に送付しており、日頃の様子が分かる写真など多く取り入れ、元気な様子が伝わるように工夫している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の知りたいことや不安に思われている事は、聞かれたときにその都度お答えし、報告が必要な事は速やかに報告を行っている。家族会でも、事業報告、行事報告他、質疑応答を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族が、ご本人との対応や理解に不安や困難を感じておられる時には、自分たちの分かる範囲で、ご本人の気持ちを考え伝えたり、ご家族の負担にならないよう気をつけながら、関係を支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事のご案内や、職員の異動・退職、新人職員の紹介等をその都度行っている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を年2回開催し、ご家族同士の関わりが持てる場を提供している。家族会の後に、昼食のお弁当やバイキングを用意し、和んでいただけるように工夫している。それ以外でも行事で会食をする機会を設けている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	転倒や、急変など起こり得るリスクは説明し、理解を得るようにしている。できる限りご本人の意思を尊重し、行動を抑制したり、禁止したりはしないよう対応策を考えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族に、積極的に話しかけ最近の様子をお伝えしたり、「何か、ご希望はありませんか?」と問いかけることで、何でも気軽に話してもらえよう、和やかな雰囲気作りを心がけている。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族の安心を第一考え、先々の不安を取り除けるような、提案(法人内でのアフターフォロー)をお伝えし、納得と安心をして頂いた上で退居していただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	行っている。	/	/	/	
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明会、行っている。	/	◎	/	地域住民とは畑作業を手伝ってくれる気軽な関係にあり、自主防災組織や防災訓練への参加協力者が多い。日頃の挨拶はもちろん、地域に向けた勉強会やイベントの開催等、開設以来取り組んでいる地道な活動が実を結んでいる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	行事の度に案内状を直接渡して回ったり、地域からの行事案内があれば職員が参加したり、利用者と共に参加している。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	年々と定着してきているとは感じる。近隣住民の協力を得ながら行事を行っている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	毎月の介護教室やイベント行事等の案内をしており、少しずつ参加者も増えてきている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	毎日ではないがお向かいやお隣のかたと、顔を合わせたら言葉を交わしたり、農作業の話をしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	様々な方面からボランティアに来て頂き、行事を盛り上げて頂き利用者に喜んで頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	行っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地区の交番や消防団の方々が訪問してくださってお話をしてくださる。公民館祭りへの出展や、運営推進会議には公民館長もご招待している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はできていない。家族や地域住民の参加はある。	x	/	△	家族や地域住民が気軽に参加し、良好な開催状況となっている。年2回の家族会でも会議内容や取り組みについて報告し、運営に反映できるよう努めている。今後は、議事録等を開示したり、会議不参加者にとっても状況や結果が理解できるような取り組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	利用者の様子やサービス内容、問題点や事故内容等報告しているが、外部評価や目標達成計画の報告はできていない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見等は現場に持ち帰り活かし、次回必ず報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間、問題ないと思われます。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	x	誰もが閲覧できるようにはしていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員一人一人が理念を理解し、取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入居の際に理念の説明を行っている。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画書を基に外部研修へ参加するようにしている。上司が個々に合わせた内容をご案内する。	/	/	/	管理者と職員が程良い距離にあり、互いを尊重し合い、意見を出しやすい関係にある。法人全体で研修や個別面談の機会を持っている。職員個々は専門性を高める意欲が非常に高く、事業所内だけでなく外部研修への参加を望んでおり、視野を広げ各自の向上心を大切にすることも、ぜひ学びの機会を与えて欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	年間計画を立て、月1回はOJTおこなっている。それとは別に法人全体の接遇研修会も年2回行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	理念にある、「やりがいのある職場づくり」を基本とし、職員の希望を取り入れながら、働きやすい職場である。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	管理者は地域包括支援センター主催の活動に参加しているが、一般職員の参加は研修等に限られる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	4月7月12月に個別面談を行っており施設長よりより良い職場づくりの為直接聞き取りをおこなっている。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に勉強会にて理解を深めている。	/	/	/	勉強会を開催し、虐待や不適切なケア、身体拘束をしないケアについて正しく理解している。現在、該当する行為はない。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員の声はすぐ届く環境であり、日々のケアも一緒に考えている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	注意を払い、手順について知っている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者会議でもストレスには気を配っており、問題があれば、意見を交換するようにして対応している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	それらの項目や詳細についても勉強会にて学んでいる。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	管理者や職員でケア内容が身体拘束に当たらないか、利用者の妨げになっていないか、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	行っている。	/	/	/	
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	理解している職員としていない職員とがいる。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があれば支援行っていく。パンフレット等分かりやすく説明できればと思う。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	ケースが少なく実際に連携はとっていない。地域包括支援センターとの連携はとれている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル整備しており、勉強会等にて周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	マニュアル整備しており、勉強会等にて周知している。経験豊富な職員である。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	どちらも記入しユニット会で検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	安全面は十分に配慮しケアに反映している。病状の変化や副作用の可能性等も検討、周知している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルに沿って、迅速丁寧に対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのようになっている。	/	/	/	
		c	苦情に対する対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	誤解の無いように、誠意をもって対応している。内容は苦情処理ファイルに記録を綴じている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	玄関ロビーに意見箱の設置している。普段のコミュニケーションの中から聞き取りおこなっている。	/	/	○	家族との良好な関係づくりに日頃から取り組んでおり、気軽に意見が発しやすい関係にある。要望や苦情については早期に検討し、反映するように努めている。管理者と職員は利用者本位の支援について話し合い、より良い事業所運営につなげるよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関ロビーに意見箱の設置している。家族会2回/年	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	これまでにそういったケースがない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	面談を通じて意見を聞いてくださっている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	同じ現場で仕事をし、意見や提案があれば皆で協議しよりよい施設になるように検討している。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価表を用いて行っている。	/	/	/	自己評価は職員全員で取り組み、課題を共有できている。事業所の質の向上に向けた取組みとなっており、家族だけでなく運営推進会議参加者とも共有することで、今後の取組みのモニターとして共に歩んでいくことに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価と上司評価をもとに面談を行い課題点を双方で確認し合い、解決へ向けての方策を考えている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所の質向上につながると考えている。目標達成へ向けてとりにくんでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	家族へは報告しているが、その他へは今後報告していく。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	今後取り組み成果の報告をしていきたいと思う。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	原子力災害を想定していない。	/	/	/	事業所所在地域は土砂災害区域にあり、職員は高い危機感を持ち、複合施設内全体で協力体制を整えている。災害に対する不安は家族や地域住民も同じであり、訓練や話し合う機会の中で理解を深めていけるよう取り組んで欲しい。また、変則勤務や夜間専門の訓練に参加できていない職員も、早期に訓練に参加できるよう期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火管理者が中心となり行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の消防団・消防署・隣接している老健等と必ず連携を取りながら訓練行っている。近隣住民も見学にきたり意見交換も行っている。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	隣の施設への応援要請に応え参加している。今後地域での災害訓練があれば参加したい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域住民や利用者・家族を対象に介護教室を1回/月開催している。毎回講師やテーマを変え、冒頭に脳トレをおこなっている。	/	/	/	地域住民に向けた会議室の開放や、勉強会や行事を工夫して開催することで、地域のケア拠点として認知されており、さらに幅広く地域活動を行いたいと意欲を高めている。市町村や地域包括支援センターなど、各関係機関との連携も良好である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば支援を行っている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	二階の会議室を開放し多目的に地域住民に活用してもらえるように説明している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	中学生の職場体験の受け入れは行っているが、実習生の受け入れ事例はない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の福祉祭りや公民館祭りへは出店している。今後は他の関係機関と連携を密にし地域活動が行えるようにしたい。	/	/	○	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成29年7月28日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	12名	(依頼数)
地域アンケート回答数	4名		

※事業所記入

事業所番号	3890101102
事業所名	グループホームあわい
(ユニット名)	ほのかユニット
記入者(管理者)	
氏名	横山啓介
自己評価作成日	29年 7月 7日

(別表第1の2)

【事業所理念】 ・お年寄りに対する尊敬の気持ち ・やりがいのある職場づくり ・地域社会への貢献	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 家族との信頼関係向上に向けての取り組みの一つとして、家族会の内容充実と開催回数を増やす。としていたが回数は前年と同じく2回となった。内容は外部評価の報告であったり活動の報告であったり、普段聞けない内容を家族へ伝えることができたがまだまだ充実とは言えない。玄関ホールへファイルにおいて家族が外部評価結果を閲覧できるようにした。面会時見て頂いている。長年にわたり地域医療・福祉に尽力してきた法人であり、地域からの信頼や安心を得ている。介護予防に力をいれ、介護教室や喜んでもらえる行事を企画実施していく。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 複合施設1階にあり、開設4年目を迎えた。長年の地域医療や福祉に貢献してきた法人力を基盤としている。施設内を開放し、地域住民に向けた介護教室等の勉強会を開催している。職員の一人ひとりの介護への意欲が高く、向上心溢れる姿勢には魅力を感じる。利用者のこだわりや大切にしたいことを実現できる事業所である。
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者さんの希望や思いを大切に、ケアプランに取り入れるようにしている。	○	/	◎	センター方式「私の気持ちシート」などを活用し、利用者の思いを大切に記録している。利用者の情報は定期的に更新することで、その時の課題に焦点をあてることができている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の意見が確認出来ない時は、ご家族さんからの意見を参考にしたり、職員が集まり話し合うことで「本人が望まれていること」を考える。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族、親せきの他に、面会に来られた知人や友人と共に、本人の思いを話し合うことがある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプラン作成時に、本人及び家族の生活に対する意向を記入した「居宅サービス計画書(1)」を記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思いを見落とさないよう、普段の生活の様子からも変化、要望がある時はその都度聞き入れられるよう気を付けている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に、センター方式を用いた用紙へ記入していき、付け足しをしながら、これまでの暮らし方やこだわりを理解していけるようにしている。	/	/	◎	入居時に利用者や利用してきたサービス事業者から聞き取り、生活の中で新たに入手した情報を追加更新させながらセンター方式でまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	できること・できないことを見極め、その時の状況に応じた関わり方でケアに当たっている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人が不安になる場面があれば、それを把握しておき、なるべくそのような場面を作らないように、そのような場所に行かれないように気をつけている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人にとって不安、ストレスとなっているものを職員個々が考え、話し合いながらその状況が改善できるように努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	利用者一人ひとりで生活リズムや日々の変化があり、それぞれに違うので、それらを理解した上で、関わるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人とご家族の他、友人や知人の意見や要望も取り入れながら、職員含め担当者会議として話し合いを行っている。	/	/	◎	ユニット会議で担当職員が中心となって話し合い、利用者が必要としていることを本人の視点で検討し、内容を議事録に記録している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人がより良く暮らすための支援を行えるようチームで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	担当者会議を行い、検討した後も、残された課題として今後、取り組むべき課題を明らかにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思い、意向など希望が取り入れられ、考えられている。	/	/	/	ユニット会で話し合った内容や、利用者や家族の希望を反映した介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	計画作成時には、本人と家族等含め、その他の関係者が意見やアイデアを出し合い、反映させている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その方が慣れ親しんだ暮らし方や、日々の過ごし方を尊重しながら、現在の状態に応じて無理のない安楽な生活が送れるように配慮している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	ご家族、地域の人たちの協力を得て、成り立つ介護計画となっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者一人ひとりの介護計画は、ユニット会にて職員間に把握され、共有できるようにしている。	/	/	○	ユニット会で介護計画を共有し、実施内容をチェック表で日々確認することで、根拠あるモニタリングへとつなげている。経過記録には、利用者の様子が手に取るように具体的に記録され、かつ職員のアイデアを豊富に記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランの内容で、日々ケアが実施出来たかを確認するチェック表があり、○×によって毎日評価し、確実に支援が実施できるようにしている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人ひとりについて、カルテの経過記録に、具体的な日々の暮らしの様子を、言葉や表情等交えながら具体的に記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	一人ひとりの記録には、職員の気づきや工夫したことも記入している。	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	入所後1ヶ月、その後は3ヶ月、6ヶ月と定期的にケアプランの見直しを行っている。	/	/	○	入居後1か月、3か月、6か月と定期的に見直しを実施し、ユニット会で毎月現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月月末には、担当者がケアプランの実施状況を確認し、評価を行い、カルテに記録することとなっている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の心身状態、暮らしの状態に変化が生じた場合には、その都度、関係者を交えてケアプラン見直しを行い、状態に応じて新たなプランを作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ユニット会では定期的な見直しの時期に、ケアプランの見直し、職員間で意見を求め合い、参考になっている。緊急、必要時は会議を開き、話し合いの場を作っている。	/	/	○	ケアを行う上での課題は、毎月のユニット会を活用し、職員間で話し合いを行っている。緊急案件など、状況に応じて会議を開催している。参加できなかった職員は、会議録や伝達ノートを確認することで正確に内容を伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では、職員がお互いに意見を出しやすい雰囲気を作り、相手の情報や考えをよく聴き、自分の意見も伝えるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限り多くの職員が参加できるように、開催日時は日中(第4木曜日 14:30~)に決め、ユニットのスタッフルームにて実施している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議で話し合われた内容は、「会議録」として記録し、全職員に確認してもらうようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	職員間での情報伝達は、口頭で伝える以外に、伝達ノートを作り、伝達事項の記入と、確認後のサイン記入を行い、情報共有を行っている。	/	/	◎	伝達ノートや会議録を活用し、確実に申し送る仕組みが機能し、情報共有ができています。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	夜勤明けの職員から早出勤員へ、早出勤員から遅出勤員へ、遅出勤員から夜勤者へと申し送り、情報伝達を行い、重要な事項が必ず全ての職員に伝えられるようにしている。	○	/	/	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	会話の中から今なにをしたい、何か気になることを察し出来る事、提供出来る事は実現する。	/	/	/	洗濯たみや台拭き、草引きや掃除など、利用者がこれまでの生活の中でごく当たり前にやってきたことで出番を設けて選択してもらい、達成感が得られるよう配慮している。「やってくれて嬉しい」と伝えることで、利用者との関係性を深めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	買い物等の選ぶ楽しみ、お手伝いでのそれぞれ好みの役割等、意思を尊重している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	利用者が思いや希望を表せるような工夫や働きかけが足りない。自分で決めたり、納得のいくような対応は心掛け実行している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	限られた時間内ではあるが、満足いくようなペースで行っている。起床や食事でも無理強いしていない。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ジョーダンも織り交ぜ笑顔を引き出せるように努めている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	経験豊富な職員であり、日頃からよく観察している。家族やセンター方式等より情報を集め様々な角度から意見をだしあう。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	内部勉強会にて、認知症の理解・プライバシー保護・職業倫理とうにより教育を行っている。	○	◎	○	言葉かけの面で口調などに配慮が欠けていると感じれば、その都度諦めずに管理者が声かけをし、職員に気付きを持ってもらえるよう指導している。勉強会で職員は共通意識を高めている。居室への入退室について、利用者占有の場所であることを理解し、ノックや挨拶を行っている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	なれ合いが出てしまい配慮に欠ける場面がある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	声掛けの大切さ、本人に合わせたペースをよく理解している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	明らかに居室不在と分かっても必ずノックは行う。ほとんどの職員が声掛け行い入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	プライバシー保護・個人情報の保護の勉強会を行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	理念にもある、「人生の大先輩」を一人一人が念頭に置いている。入居者の自信につながるよう「助かります」「ありがとうございます」は欠かさない。	/	/	/	利用者同士の関係性を職員は理解している。ダイニングテーブルのレイアウトはいつでも変更可能で、状況に応じて配席を検討したり、さりげない介入ができています。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	業務を通じて職員一人一人が感じている、お互いさま・お蔭さま、助け合う大切さを分かっている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	日頃のケアを通し、利用者の性格、行動を十分把握し、トラブルにならないよう配慮している。必ず間に入り良い関係作りに努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必ず素早く間にはいるように心掛け実行している。必要であると判断すれば家族の協力もお願いし話を聞いて頂く。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	センター方式により生活歴等の情報収集しているが、家族によつたら情報不足があったり職員の認識不足もある。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	センター方式により生活歴等の情報収集しているが、家族によつたら情報不足があったり職員の認識不足もある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	こちらから会いに行くことがほとんどない。お墓参りや法事や自宅への一時外出はある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	接遇には力を入れており、気持ちの良い挨拶、お話し、おもてなし(お飲み物・椅子等)を素早く行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。 (職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	屋内中心であり、洗濯物干しや天気の良い日の屋上での日光浴、お散歩くらいである。	○	○	○	日常的には施設建物屋上や周辺地域の散歩が中心になっているが、おやつを外で食べて気分を変えるなど工夫がある。季節行事の花見や家族の協力を得ての帰省、ドライブがてら買い物へと希望に沿った外出支援ができています。重度の利用者も戸外の風に当たり、気分転換ができるように努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	来ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	車椅子にて花見観賞や日光浴を行っている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	野球観戦や演劇を見に行く計画を立てている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症や行動心理状況についての勉強はし理解はしている。要因を紐解き様々な案は出している。	/	/	/	毎日の生活の中で、利用者が「やってみたい」「できそう」と感じられる場面を見つけては、一緒に行えるよう声をかけ、無理強いすることなく支援することができている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	理解できている職員はいるが、効果的な取り組みとはいい難い。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人にやる気が湧くような声掛けや励ましを行い、出来る事を見極めながら一緒に頑張るように援助している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居前のp情報収集や入居後のセンター方式での分析を行っている。	/	/	/	事業所だけでなく家族の協力を得ながら支援している。利用者の楽しみや役割を分析し、暮らしの中で楽しみが継続できるよう検討し、趣味の盆栽を管理する利用者の居室は圧巻であった。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	工夫が足りない。バリエーションがなく、もっと脳が活性化するような内容だったり、自然とやる気が湧くような体操があればと思う。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	あわい地区の公民館祭りへ製作品を出展した。	/	/	/	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	それぞれの好みは必ず取り入れる。このスタイリングでいいか本人の感想も聞くようにしている。	/	/	/	整容ケアについて、法人全体での取り組みを実施している。利用者の希望を聞きながら、重度な状態であっても健康管理に配慮しながら、季節に応じた身だしなみを整えている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	それぞれの好みは必ず取り入れる。本人の感想も聞くようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	馴染みの服や家族へ聞き取り情報収集している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の時は家族さんへも相談しながら選んでいる。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	口にはださない、整容ケアには十分配慮している。5Sの取り組み(きれいなお年寄り)	○	◎	○	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	可能な限り希望を聞き、馴染みの美容院が外にある方は家族と外出もされる。カラーやパーマ	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	着るものの調節には注意している。循環の悪い方には保温に気をつけ、四肢や顔色の状態は気をつけている。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食の大切さ楽しみは皆が理解している。	/	/	/	法人内で統一したメニューであり、食材は一括して準備されているが、持ち回りで献立を立案したり、各ユニットで調理する際に自由にアレンジすることができ、下ごしらえやおやつづくりなどを利用者とともにやっている。利用者の好みやアレルギーの有無を把握し、色合いや旬の食材を取り入れている。食器は使いやすいものや使い慣れたものを用い、職員は利用者の様子を確認しながら同じ食卓を囲んでいる。重度な状態であっても、同じ食卓で他利用者とともに香りや雰囲気を楽しむことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材の下処理を一緒におこなっている。食べたい物を聴き注文に加えている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	得意な方にはお好み焼きやホットケーキを御願したり、自信へとつながるように感謝の言葉も必ず添える。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	センター方式、日々のコミュニケーションの中から情報を得、申し送りにて共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	法人統一メニューであり、グループホームあわいが献立を立てるのは6月、7月分である。サイドメニューをなにかつけたり、味付けを少し変えたり個々のニーズにこたえている。行事等では献立も変更する。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	誤嚥と一人一人の食事形態にはきをつけ、利用者が美味しいと感じるようにみじん切りにしたり、とろみを加減したり、している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	馴染みのものを用意していただいている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	一緒に食事している。サポートも素早く行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	匂いや音、話を通して楽しみにまわっていただいている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	カロリー計算までは行っていないが状態観察、水分量のチェック。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	脱水の危険は理解しており、水分チェックもしている	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	調理の得意、不得意が職員間でアイデアも声掛け合いながら協力して作っている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	係を決め、冷蔵庫や食材の在庫の確認を頻回にしている。生ものは使い捨てのまな板や、消毒の徹底により防止する。	/	/	/	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの外部勉強会へ行き、自施設にて振り返りの伝達講義をおこなっている。	/	/	/	口腔ケアが苦手な利用者にも自尊心に十分配慮した介助方法を検討し、歯科往診で専門的なアドバイスを得ながら支援することができている。自身で口腔ケアができる利用者の管理が不十分であると感じており、今後は全利用者の口腔内の健康管理に取り組めることに期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	自分でされる方への口腔内の状態確認が不十分である。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	研修等あれば参加している。往診の先生に助言やアドバイスをいただく。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	出来るところはして頂き、仕上げは行い、消毒も欠かさない。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	△	自分でされる方への状態確認(清潔確認)が不十分である。	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	迅速に対応している。協力歯科(光洋台DC)より往診あり。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	可能な限り自然な形で排泄に努めている。安易に紙パンツ使用しない、オムツの使用も身体状態を家族を含めて慎重に検討している。	/	/	/	退院後等の大きな変化がある際にはアセスメントを行い、オムツから紙パンツへの軽減につながる利用者もいる。トイレでの自然排泄を基本に、本人の能力を活用した支援を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	グループホームでの勉強会をおこなっている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄状況チェック表にて把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	必要性についても見直ししたり、状態に応じてオムツはずしへの意識はもっている。	○	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	看護師にアドバイスをもらいながらではあるが、慢性的な便秘の方への介助者として有効な手段に困ることがある。頻尿に対しては様々な工夫がみられる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	パターンを把握しおこなっている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	利用者の意見を反映して選ぶケースがあまりない。決まった商品からサイズ等こちらで選ぶことが多いが、家族負担は大きくならないように注意している。初めての方は本人にお伺いをたてて購入している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	体型や排泄量に応じて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	運動を行ったり、マッサージをしたり、腹部を温めたり、水分や乳製品を多めにいく等の対応ではあるが、おこなっている。効果を得られない方もいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	夕食後夜間に入浴される方へは時間をずらして入浴介助おこなっている。長さや温度等も配慮している。	◎	/	○	週2回の入浴を基本とし、希望や習慣に応じてゆっくりとした入浴時間を確保している。法人内の機械浴を利用することもでき、状態や希望に応じて対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	焦らすことはせず、ゆっくり入浴していただいている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は本人にお願いし、本人のペースで動いてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず、拒否の背景をスタッフ全員で考え、気分が乗るように対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前の健康チェック必ず行う。血圧、検温、様子観察。入浴後状態変化にも注意し、水分補給も行う。	/	/	/	
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間の観察を1時間ごとに行い、睡眠状態をカルテに記入している。	/	/	/	服薬処方のある利用者もいるが、概ね安眠傾向にある。利用者個々の一日のリズムを把握し、正しい生活リズムへつながるよう配慮している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中の過ごし方の工夫や夜間の不安を取り除く声掛けが行える職員もいるが、改善せず対応に困っている職員もいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	生活リズムや睡眠パターンを分析することもある、毎回ではなくカルテの経過記録や情報収集等を検討材料にしている。医師とも相談している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	車椅子の方や自分で居室に戻れない方へは、午前午後自室で休息する時間をとっている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば家族へ電話し、安心して頂いている。暑中見舞いや年賀状の作成もやっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	そのような場面があればおこなっている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	公衆電話は無く施設の固定電話なので、使うのに少し遠慮が出てしまうかもしれない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人か家族に報告しお渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	心配を抱えている方は家族へお話し協力頂くようにしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	敷地内の売店等に買い物行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	外部への買い物が可能な方は限られてしまっており、馴染みの関係のお店がある状態でもない。移動販売には協力いただいている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	利用者の家族へお金は預らせて頂くようにおねがいはしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	出納簿をつけ、金庫に施錠し保管管理している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納簿をつけ、金庫に施錠し保管管理している。規程と同意書あり。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	柔軟に対応出来るように取り組んでいる。可能な限り家族・利用者のニーズを尊重し応えている。	◎	/	◎	基本的に送迎サービスは実施していないが、家族の集うお正月に帰省したいという利用者のニーズに応えるなど、その都度柔軟な姿勢で対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	植栽をもう少し季節に合った可憐にできればと思う。鉄筋コンクリート造の為に少し堅苦しい雰囲気があるかもしれない。	◎	◎	○	複合施設内にあってもグループホーム独自の玄関を設け、季節感や温かさを感じる飾り付けで立ち寄りやすい雰囲気が演出できている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	内容の通りほぼできていると思います。	○	◎	○	明るい色調の内装で、広々とした開放的な共用空間は、季節感を取り入れた温かみある装飾で心地良さを感じることができる。清潔であることにごだわりを持ち、空調管理や清掃、臭気への配慮が行き届いた快適な空間を保っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	清掃、換気、消臭、気をつけて行っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられる壁面飾りを意識している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでの座席配置も工夫し、憩いの場ではストレスをためない、安心して過ごせる配慮はしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	脱衣場にのれんがあり、トイレにカーテンがあるが十分ではなく廊下から見える恐れはある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居の際に家族へ馴染みの道具や、可能な限り居心地の良い居室の雰囲気作りをお願いしている。	○	/	○	利用者の馴染みの家具や趣味の道具を持ち込んで、それぞれに趣きある空間となっている。また、全室清掃が行き届いている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	導線や安全に配慮し妨げにならないように工夫している。	/	/	○	建物内部は共用空間と各居室がわかりやすく配置となっており、現在混乱する利用者はいない。動線上の安全に配慮した生活環境を整えている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険や混乱を招く可能性があるものについては、家族や利用者、職員で検討し対応を考えている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	出来る方にはそのようにできているが、(ほうきや家事道具)車椅子の方や身体機能が不自由な方への工夫が足りない。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	夜間以外の施錠はしていない。	◎	◎	◎	法人全体の取組みとして、鍵をかけないケアを徹底し、自由な暮らしについて理解している。外出したい利用者には、見守りで対応することができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	大半の家族に安心していただいている。またはご理解いただいている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	他部署との連携、入り口に鈴を付けている。運営推進会議で近隣住民へ説明、見守りの眼をお願いしている。	/	/	/	
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	既往歴や服薬内容等、入居時に洗い出し周知している。定期診察にての診察内容や内服薬変更等も申し送っている。	/	/	/	/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	早め早めの異常を察知し、連絡、相談がスピーディーにおこなえている。往診や外来にて検査行い、協力病院との連携も密である。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	できている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	昔馴染みのかかりつけ医を希望される方は引き続き診察が受けられるように協力している。病状に合わせ適した病院を家族へ案内し家族・利用者と共に方向性を決めている。	◎	/	/	/
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	要所要所では往診時に家族を交え主治医との話し合いを行い、意向を確認しその後の治療方針へ反映している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	可能な限り迅速に電話連絡をし、状況や結果報告している。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	本人の生活リズムや習慣は必ず伝えるようにしている。情報は細かく伝えている。	/	/	/	/
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	退院ごのフォローがスムーズに行くよう、連絡は密にとっている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	常勤の看護師や同建物内の看護師に相談している。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	常勤看護師が24時間連絡できる体制にある。主治医との連絡も可能である。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につながっている。	○	週に2回は協力病院のドクターが事業所にきており、変わった様子が見られればすぐ受診できる体制がある。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤の内容はカルテにファイリングしており、変更や追加があれば薬の内容や状態について細かく申し送っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	細心の注意を払い、投薬をおこなっている。誤薬もほとんどない。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	新しい薬や、睡眠薬や向精神薬とう内服時は考えられる副作用について注意するようつたえている。カルテに記入して様子観察行っている。異常があれば速やかに管理者へ報告している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	看護師を中心にし状態の変化を細かく主治医に報告することで、不要な薬の中止等へもつながる。様子はカルテに記録して家族へも連絡している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時、状態変化時、その都度確認している。	/	/	/	看取り介護の経験があり。状態に応じて意向を確認しながら方針を共有し、できること、できないことを明確にしている。終末期を迎える利用者や家族を支えるためには、職員の不安軽減が不可欠と考えている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	主治医とは密に情報共有しており、職員を含め状況、方針も共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	△	グループホームあわいで看取りが過去に1件といざという時の不安はあるが、力量への不安はない。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療行為のみならず、できないことはお伝えしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療機関と密に連携をとりながら、変化に迅速に対応出来るようにしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の不安、特別な事情等、素直な声が聴けるような雰囲気づくりを考えながら、安心して頂けるような声掛け、誠実な説明行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	グループホーム内で毎年勉強会をしている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアル整備しており、それを基に勉強会もおこなっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入力し、取り入れている。	○	注意喚起記事や注意報が発令されれば通達速報行い、施設内に注意書き掲示する。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	法人内で情報共有している。パソコン内にて通達確認。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いうがい励行できている。玄関ホールにある手洗い場に消毒、マスク、うがい用のコップ常設している。	/	/	/	
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族が来られた時には、一緒に話をしながらご本人を中心にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。	/	/	/	季節行事や法人全体での夏祭り、家族会等、家族が足を運びたい参加型行事を工夫して開催している。定期的なお便りや、写真の送付で、来訪する機会が少ない家族にも利用者の暮らしぶりを具体的に伝えていく。運営に理解や協力が得られるよう、その都度報告し説明している。些細な話でも気軽に口にできるよう、面会や連絡時の関係づくりを大切にしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	ご家族が心地よく過ごせるように、挨拶、声掛けを行い、居室やリビングで寛いで頂けるように、イスや飲み物を用意している。宿泊されることはないが、朝や夜でも時間を気にせず面会に来ていただいている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	グループホームでの季節行事や、施設全体での行事をご案内し、一緒に参加して頂けるような機会を作っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	年4回の「あわい便り」をご家族に送付しており、日頃の様子分かる写真など多く取り入れ、元気な様子が伝わるように工夫している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族の知りたいことや不安に思われている事は、聞かれたときにその都度お答えし、報告が必要な事は速やかに報告を行っている。家族会でも、事業報告、行事報告他、質疑応答を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご家族が、ご本人との対応や理解に不安や困難を感じておられる時には、自分たちの分かる範囲で、ご本人の気持ちを考え伝えたり、ご家族の負担にならないよう気をつけながら、関係を支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事のご案内や、職員の異動・退職、新人職員の紹介等をその都度行っている。	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会を年2回開催し、ご家族同士の関わりが持てる場を提供している。家族会の後に、昼食のお弁当やバイキングを用意し、和んでいただけるように工夫している。それ以外でも行事で会食をする機会を設けている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	転倒や、急変など起こり得るリスクは説明し、理解を得るようにしている。できる限りご本人の意思を尊重し、行動を抑制したり、禁止したりはしないよう対応策を考えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	ご家族に、積極的に話しかけ最近の様子をお伝えしたり、「何か、ご希望はありませんか?」と問いかけることで、何でも気軽に話してもらえるように、和やかな雰囲気作りを心がけている。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族の安心を第一考え、先々の不安を取り除けるような、提案(法人内でのアフターフォロー)をお伝えし、納得と安心をして頂いた上で退居していただいている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	行っている。	/	/	/	
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	説明会、行っている。	/	◎	/	地域住民とは畑作業を手伝ってくれる気軽な関係にあり、自主防災組織や防災訓練への参加協力者が多い。日頃の挨拶はもちろん、地域に向けた勉強会やイベントの開催等、開設以来取り組んでいる地道な活動が実を結んでいる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	行事の度に案内状を直接渡して回ったり、地域からの行事案内があれば職員が参加したり、利用者と共に参加している。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えてきている。	○	年々と定着してきているとは感じる。近隣住民の協力を得ながら行事を行っている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	毎月の介護教室やイベント行事等の案内をしており、少しずつ参加者も増えてきている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	毎日ではないがお向かいやお隣のかたと、顔を合わせたら言葉を交わしたり、農作業の話をしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	様々な方面からボランティアに来て頂き、行事を盛り上げて頂き利用者に喜んで頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	行っている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地区の交番や消防団の方々が訪問してくださってお話をしてください。公民館祭りへの出展や、運営推進会議には公民館長もご招待している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はできていない。家族や地域住民の参加はある。	x	/	△	家族や地域住民が気軽に参加し、良好な開催状況となっている。年2回の家族会でも会議内容や取組みについて報告し、運営に反映できるよう努めている。今後は、議事録等を開示したり、会議不参加者にとっても状況や結果が理解できるような取組みに期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	利用者の様子やサービス内容、問題点や事故内容等報告しているが、外部評価や目標達成計画の報告はできていない。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出された意見等は現場に持ち帰り活かし、次回必ず報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	日程や時間、問題ないと思われます。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	x	誰もが閲覧できるようにはしていない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員一人一人が理念を理解し、取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	入居の際に理念の説明を行っている。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修計画書を基に外部研修へ参加するようにしている。上司が個々に合わせた内容をご案内する。	/	/	/	管理者と職員が程良い距離にあり、互いを尊重し合い、意見を出しやすい関係にある。法人全体で研修や個別面談の機会を持っている。職員個々は専門性を高める意欲が非常に高く、事業所内だけでなく外部研修への参加を望んでおり、視野を広げ各自の向上心を大切にするためにも、ぜひ学びの機会を与えて欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	年間計画を立て、月1回はOJTおこなっている。それとは別に法人全体の接遇研修会も年2回行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	理念にある、「やりがいのある職場づくり」を基本とし、職員の希望を取り入れながら、働きやすい職場である。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	管理者は地域包括支援センター主催の活動に参加しているが、一般職員の参加は研修等に限られる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	4月7月12月に個別面談を行っており施設長よりより良い職場づくりの為直接聞き取りをおこなっている。	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に勉強会にて理解を深めている。	/	/	/	勉強会を開催し、虐待や不適切なケア、身体拘束をしないケアについて正しく理解している。現在、該当する行為はない。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	職員の声はすぐ届く環境であり、日々のケアも一緒に考えている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	注意を払い、手順について知っている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者会議でもストレスには気を配っており、問題があれば、意見を交換するようにして対応している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	それらの項目や詳細についても勉強会にて学んでいる。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	管理者や職員でケア内容が身体拘束に当たらないか、利用者の妨げになっていないか、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	行っている。	/	/	/	
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	理解している職員としていない職員とがいる。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	相談があれば支援行っていく。パンフレット等分かりやすく説明できればと思う。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	ケースが少なく実際に連携はとっていない。地域包括支援センターとの連携はとれている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル整備しており、勉強会等にて周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	マニュアル整備しており、勉強会等にて周知している。経験豊富な職員である。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	どちらも記入しユニット会で検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	安全面は十分に配慮しケアに反映している。病状の変化や副作用の可能性等も検討、周知している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルに沿って、迅速丁寧に対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	そのようおこなっている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	誤解の無いように、誠意をもって対応している。内容は苦情処理ファイルに記録を綴っている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	玄関ロビーに意見箱の設置している。普段のコミュニケーションの中から聞き取りおこなっている。	/	/	○	家族との良好な関係づくりに日頃から取り組んでおり、気軽に意見がしやすい関係にある。要望や苦情については早期に検討し、反映するように努めている。管理者と職員は利用者本位の支援について話し合い、より良い事業所運営につなげるよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関ロビーに意見箱の設置している。家族会2回/年	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	これまでにそういったケースがない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	面談を通じて意見を聞いてくださっている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	同じ現場で仕事をし、意見や提案があれば皆で協議しよりよい施設になるように検討している。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価表を用いて行っている。	/	/	/	自己評価は職員全員で取り組み、課題を共有できている。事業所の質の向上に向けた取り組みとなっており、家族だけでなく運営推進会議参加者とも共有することで、今後の取り組みのモニターとして共に歩んでいけることに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価と上司評価をもとに面談を行い課題点を双方で確認し合い、解決へ向けての方策を考えている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	事業所の質向上につながると考えている。目標達成へ向けてとらんでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	家族へは報告しているが、その他へは今後報告していく。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	今後取り組み成果の報告をしていきたいと思う。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	原子力災害を想定していない。	/	/	/	事業所所在地域は土砂災害区域にあり、職員は高い危機感を持ち、複合施設内全体で協力体制を整えている。災害に対する不安は家族や地域住民も同じであり、訓練や話し合う機会の中で理解を深めていけるよう取り組んで欲しい。また、変則勤務や夜間専門の訓練に参加できていない職員も、早期に訓練に参加できるよう期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防火管理者が中心となり行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の消防団・消防署・隣接している老健等と必ず連携を取りながら訓練行っている。近隣住民も見学にきたり意見交換も行っている。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	隣の施設への応援要請に応え参加している。今後地域での災害訓練があれば参加したい。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域住民や利用者・家族を対象に介護教室を1回/月開催している。毎回講師やテーマを変え、冒頭に脳トレをおこなっている。	/	/	/	地域住民に向けた会議室の開放や、勉強会や行事を工夫して開催することで、地域のケア拠点として認知されており、さらに幅広く地域活動を行いたいと意欲を高めている。市町村や地域包括支援センターなど、各関係機関との連携も良好である。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば支援を行っている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	二階の会議室を開放し多目的に地域住民に活用してもらえるように説明している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	中学生の職場体験の受け入れは行っているが、実習生の受け入れ事例はない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の福祉祭りや公民館祭りへは出店している。今後は他の関係機関と連携を密にし地域活動が行えるようにしたい。	/	/	○	